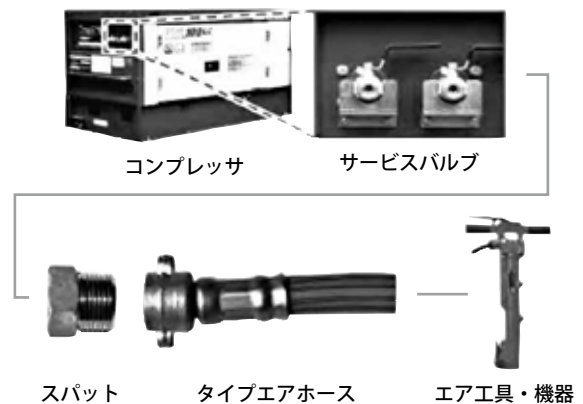


## 使用例

### ■ エンジンコンプレッサーで使えるエア工具及び台数

エア工具	空気消費量 ( $\text{m}^3/\text{min}$ )	コンプレッサー型式/吐出( $\text{m}^3/\text{min}$ )		
		100クラス	130クラス	180クラス
		2.8	3.7	5.1
エアチッパー	0.33	7		
	0.5	5		
エアピック	0.7	3	7	10
	0.9 ~ 1.3	2	5 ~ 3	7 ~ 5
エアブレーカー	#10 1	2	4	6
	#20 1.5	1	2	4
	#30 1.6 ~ 2.5	1	2 ~ 1	4 ~ 2
エアカッター	0.6	4	8	
	1.1	2	3	5
ジャックハンマー	1.6	1	2	4

### ■ 取付例



## アフタークーラーとは

コンプレッサ使用時、こんな経験ありませんか？



それらすべて、圧縮空気中の水分が原因なんです！

圧縮空気の水分をアフタークーラーで冷却して結露させ、水分を除去しますので吐出空気には微量の水分しか含まれません。

### 吐出空気から発生する水分量

(0.7MPa、気温30℃、湿度70%)

ブレーカ(1.4 $\text{m}^3/\text{min}$ )などを4時間使用した場合



一升ビン約3本分

### 吐出空気中の水分を除去

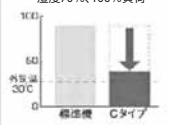
#### 吐出空気の水分量

大気圧、気温30℃、湿度70%  
標準機を100とした場合



### 吐出空気の湿度を低下

吐出空気温度  
大気圧、気温30℃、  
湿度70%、100%負荷



## エアドライとは

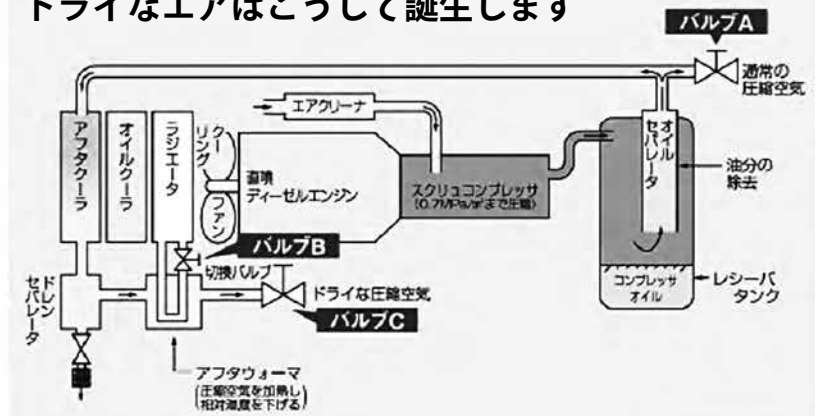
オイルセパレーターで油分を取り除かれた圧縮空気は、アフタークーラーで十分に冷却されます。

圧縮空気が冷却されると、圧縮空気中の飽和水蒸気(圧縮空気中に溶けこめない水蒸気)は水滴となり、ドレンとして排出されます。

水を含まなくなった圧縮空気は、エンジン水温を再利用したアフタウォームで加熱されることによって湿度が下がり、ドライエアに変身します。

アフタウォームのバルブを切り換えるだけで、エアを使用できます。(PD5670SD)ドライエアが必要ないときには、バルブを切り換えるだけで通常のコンプレッサとしても使用できます。

## ドライなエアはこうして誕生します



※上記は参考数値です。若干仕様が異なる場合もあります。